

2022年度第1回 豊岡市生物多様性地域戦略 第3期短期戦略策定委員会

【豊岡市生物多様性地域戦略第2期短期戦略の 評価及び課題】

日時：2022年8月18日（木） 14:00～

場所：豊岡市役所3階 庁議室

豊岡市生物多様性地域戦略第2期短期戦略の 評価及び課題

- I 第2期短期戦略における取組の状況
- II 各取組の実績等
- III 取組事例
- IV 取組による成果
- V 取組の評価及び課題
- VI 第3期短期戦略における取組の方向性

I 第2期短期戦略における取組の状況

第2期短期戦略における取組は、第1期短期戦略の取組状況を踏まえ、2018年から2022年までの5年間に推進する内容として2018年に策定された。

まずは知る = 作戦1

行動に移す = 作戦2

基盤を守る = 作戦3

つながり合う = 作戦4

効果を高める = 作戦5

1 「まずは知る」作戦！
地域みんなが、地域の自然の豊かさや脆さを
わかるようにします。

- 目標1 生きものの様子から季節の変化を感じ取り、その話題で会話が弾んでいます。
- 目標2 「生きもの博士」と呼ばれる人が増えています。
- 目標3 地域の生きものの現状が科学的に整理され、その情報が共有されています。
- 目標4 小学校区ごとに「生きもの地図」が備えられています。



2 「行動に移す」作戦！
多様な生きものが住みやすい環境を増やします。

- 目標1 行政も地域も、生きものに配慮した行動を心がけています。
- 目標2 豊岡で暮らすコウノトリたちが、安定して生活しています。
- 目標3 市内各地に「春の小川」がイメージできる水辺があります。
- 目標4 市街地・住宅地でも多くの生きものと触れ合うことができます。
- 目標5 ラムサール条約登録エリアが広がりました。
- 目標6 在来の生態系を乱す外来種の侵入・増加を防いでいます。
- 目標7 希少になった生きものや生態系に、個別の保護対策が進められています。



3 「基盤を守る」作戦！
地域を支える第一次産業を育てます。

- 目標1 農業や化学肥料に頼らない農業が増え、田んぼの生態系が豊かになっています。
- 目標2 市民や消費者と交流する生産者の顔が輝いています。
- 目標3 地元で採れたものを優先して食べる人が増えました。
- 目標4 若い世代が第一次産業の大切さを理解しています。



4 「つながる・つなげる」作戦！
人と人、地域と人とのつながりを深めます。

- 目標1 自然の中で遊ぶ子どもの姿をよく見るようになりました。
- 目標2 親子で生きものや自然に触れ合う機会が増えています。
- 目標3 地域の文化や伝統的な知恵・技が受け継がれています。
- 目標4 交通施設では、楽しい声が弾んでいます。
- 目標5 日本中、世界中から訪れる人がいて、地元の人と交流しています。



5 「効果を高める」作戦！
作戦を実行しやすいしくみをつくります。

- 目標1 行動のすべては、「見直し」の手法で実践されています。
- 目標2 この戦略の実践を支える拠点が機能しています。



出典：豊岡市生物多様性地域戦略

I 第2期短期戦略における取組の状況

地域戦略を推進するため、5つの作戦それぞれに目標を設定し、更に各目標を達成するための取組を定めている。

第2期短期戦略では、第1期短期戦略(2013年～2017年)において設定した5つの作戦及び目標を踏襲するとともに、第1期短期戦略の取組状況を評価し、取組内容の見直しを実施している。

第2期短期戦略の取組状況について、庁内における関係課の実施状況や各種ヒアリング結果を用いて評価を行う。

例 **まずは知る** = **作戦1** 地域 みんなが、地域の自然の豊かさや脆さをわかるようにします。

目標1 生きものの様子から季節の変化を感じ取り、その話題で会話が弾んでいます。

目標2 「生きもの博士」と呼ばれる人が増えています。

目標3 地域の生きものの現状が科学的に整理され、その情報が共有されています。

目標4 小学校区ごとに「生きもの地図」が備えられています。

目標1

取組① 豊岡に住む生きものや植物の市民調査を実施します。

取組② 豊岡らしい季節のことばを集めた「豊岡時候のあいさつ集」を作成します。

取組③ 季節の特徴的な生きものや植物の観察会を開催します。

I 第2期短期戦略における取組の状況

第2期短期戦略における取組は下表に示すとおりであり、計54の取組がある。

作戦I 「まずは知る」作戦！ 地域みんなが、地域の自然の豊かさや脆さをわかるようにします。

目標		取組	
目標1	生きものの様子から季節の変化を感じ取り、その話題で会話が弾んでいます。	1-1-①	豊岡に住む生きものや植物の市民調査を実施します。
		1-1-②	豊岡らしい季節のことばを集めた「豊岡時候のあいさつ集」を作成します。
		1-1-③	季節の特徴的な生きものや植物の観察会を開催します。
目標2	「生きもの博士」と呼ばれる人が増えています。	1-2-①	地域の生きもの博士情報を集め、「豊岡生きもの博士名鑑」を作成します。
		1-2-②	博士を増やすための「生きもの検定」を実施します。
目標3	地域の生きものの現状が科学的に整理され、その情報が共有されています。	1-3-①	地域の生きもの情報を詰め込んだ「豊岡版GIS」を構築します。
		1-3-②	その情報を、公共工事や自然再生の取組みに活用します。
		1-3-③	「コウノトリ市民科学」によるコウノトリのモニタリング調査を実施し、情報を発信します。
目標4	小学校区ごとに「生きもの地図」の作成、活用に関するマニュアルをつくります。	1-4-①	「ふるさと教育」などと連携して「生きもの地図」を作成するために支援します。
		1-4-②	「生きもの地図」の作成、活用に関するマニュアルをつくります。

I 第2期短期戦略における取組の状況

作戦2 「行動に移す」作戦！ 多様な生きものが住みやすい環境を増やします。

目標		取組	
目標1	行政も地域も、生きものに配慮した行動を心がけています。	2-1-①	公共事業における「生きものの配慮指針」をつくります。
		2-1-②	「生きものの配慮指針」を公共事業や自然再生の取組みに活用します。
		2-1-③	地域で行う「クリーン作戦・グリーン作戦」に、外来種対策をプラスすることを呼びかけます。
		2-1-④	生物多様性保全のためにも「豊岡市景観計画」を推進します。
目標2	豊岡で暮らすコウノトリたちが、安定して生活しています。	2-2-①	市民との情報共有を強化しながら、コウノトリの野生復帰を広げていきます。
		2-2-②	見守りなどを通じて、野外のコウノトリと地域との関わりを生み出します。
		2-2-③	「豊岡自然再生アクションプラン」に基づき、地域と連携した自然再生に取り組めます。
目標3	市内各地に「春の小川」がイメージできる水辺があります。	2-3-①	「春の小川」の基準を定めます。
		2-3-②	「春の小川」づくりをサポートするしくみをつくります。
		2-3-③	モデル的に「春の小川」づくりに取り組む地域を募り、実践します。

I 第2期短期戦略における取組の状況

作戦2 「行動に移す」作戦！ 多様な生きものが住みやすい環境を増やします。

目標		取組	
目標4	市街地・住宅街でも多くの生きものと触れ合うことができます。	2-4-①	市民は、プランターや庭で緑を生み出します。
		2-4-②	地域は、神社や公園を緑や生きものの拠点として意識します。
		2-4-③	行政は、各ポイントを「回廊」として機能させます。
目標5	ラムサール条約登録エリアが広がりました。	2-5-①	登録エリアにおける保全やワイズユース(賢明な利用)の取組みを充実します。
		2-5-②	登録エリアをモデルに取組みや意識を周辺に広げ、エリアを拡大します。
		2-5-③	学校教育でラムサール登録に触れ、誇りを醸成します。
目標6	在来の生態系を乱す外来種の侵入・増加を防いでいます。	2-6-①	外来生物に対する知識を深め、効果のある対策を検討します。
		2-6-②	豊岡版ブラックリストを用いた学習会を開催します。
		2-6-③	外来生物への対策を強化するエリアを決め、積極的な駆除に努めます。
目標7	希少になった生きものや生態系に、個別の保護対策が進められています。	2-7-①	希少動植物に対する知識を深め、効果のある対策を検討します。
		2-7-②	豊岡版レッドリストを用いた学習会を開催します。
		2-7-③	生態系に悪影響を及ぼす有害鳥獣への対策を強化します。

I 第2期短期戦略における取組の状況

作戦3 「基盤を守る」作戦！ 地域を支える第一次産業を育てます。

目標		取組	
目標1	農薬や化学肥料に頼らない農業が増え、田んぼの生態系が豊かになっています。	3-1-①	「豊岡市農業振興戦略」に基づき、豊岡型環境創造型農業を拡大します。
		3-1-②	田んぼや水路の生態系機能を高めます。
		3-1-③	田んぼづくりに関する意識改革に取り組みます。
目標2	市民や消費者と交流する生産者の顔が輝いています。	3-2-①	生産者と市民との交流機会を増やします。
		3-2-②	生産者と全国の消費者との交流機会を増やします。
目標3	地元で採れたものを優先して食べる人が増えました。	3-3-①	地元産品を扱う店舗や料理店の数を増やします。
		3-3-②	学校給食における地元産品利用割合を、国の基準(3割)に近づけます。
目標4	若い世代が第一次産業の大切さを理解しています。	3-4-①	学校園で環境に配慮した農業体験活動を実施します。
		3-4-②	就職希望学生に向けて、第一次産業の魅力をPRします。
		3-4-③	「豊岡農業スクール」などによる就農支援を行います。

I 第2期短期戦略における取組の状況

作戦4 「つながる・つなげる」作戦！ 人と人、地域とのつながりを深めます。

目標		取組	
目標1	自然の中で遊ぶ子どもの姿をよく見るようになりました。	4-1-①	次世代を担う子どもたちを育てるため、自然とふれあう活動を充実させます。
		4-1-②	地域の方が講師となって、地域で行う「自然遊び教室」を実施します。
		4-1-③	
目標2	親子で生きものや自然に触れ合う機会が増えています。	4-2-①	PTAの学年行事に、生きもの調査や自然観察を採り入れます。
		4-2-②	生きものや自然に触れる親子イベントを数多く企画します。
目標3	地域の文化や伝統的な知恵・技が受け継がれています。	4-3-①	祭事を通じて地域の文化や自然へのまなざしを醸成します。
目標4	交流施設では、楽しい声が弾んでいます。	4-4-①	生物多様性について学び、体験できるプログラムを充実します。
		4-4-②	地域コミュニティと連携し、生物多様性に関係のある取組みを応援します。
目標5	日本中、世界中から訪れる人がいて、地元の人と交流しています。	4-5-①	コウノトリ野生復帰の取組みに参加する人を増やします。
		4-5-②	コウノトリ野生復帰の取組みや豊岡の自然に共感して訪れる人と地域住民との交流機会を増やします。

I 第2期短期戦略における取組の状況

作戦5 「効果を高める」作戦！ 作戦を実行しやすいしくみをつくります。

目標		取組	
目標1	行動のすべては、「見試し」の手法で実践されています。	5-1-①	PDCAサイクルの手法を取り入れます。
		5-1-②	アダプティブマネジメント(適応管理)の手法を取り入れます。
目標2	この戦略の実践を支える拠点が機能しています。	5-2-①	市役所を中心に拠点を定め、取組みを推進します。

V 取組の評価及び課題

取組の評価及び課題は以下に示すとおりである。

積極的に実施されている取組がある一方で、実現可能性が低く、実施が困難な取組も見られる。

■ 進捗が良い取組の要因

- ・民間と共同して取組むことにより、取組の事業化に成功している。
- ・生物多様性の重要性を意識づけることにより、生物に優しい環境づくり(除草剤を使用しないなど)が行われている。

■ 各取組共通の課題

- ・取組単位での具体的な目標が示されていないため、進捗状況等の評価が困難である。
- ・生物多様性に関する理解が進んでいないため、十分な配慮が得られない。
- ・高齢化による人手不足や負担が増加している。
- ・市民の生物多様性への関心の低下や地域の自主性の醸成が困難である。

■ 取組固有の課題(一例)

- ・外来生物/希少動植物について、市としての駆除対象/緊急的な保護対象を検討する必要がある。(2-6-①、2-7-①)
- ・一次産業(農業)への就職PRに関して、学校側が想定する就業形態と実態に乖離があるため調整が必要である。(3-4-②)

VI 第3期短期戦略における取組の方向性

■ 取組状況からの方向性

- ・現状実施中であり今後も継続可能な取組 ⇒ 取組内容の踏襲または強化
- ・未実施であるが今後実施可能な取組 ⇒ 取組内容の一部見直し
- ・未実施であり、今後も実現性が低い取組 ⇒ 取組内容の抜本的な見直しまたは変更

■ 既存取組の廃止・新規取組の追加等を含めた検討

- ・現行の取組について、実現可能性の低い項目については廃止を含めた検討を行う。
また、近年の動向を踏まえ新規取組の追加を含めた内容の見直しを行う。

■ 関連計画等と連携した取組の実施

- ・豊岡市が策定している関連計画（環境基本計画等）に記載されている環境施策（副次的な効果も含む。）と連携することによって、より実効性の高い取組を展開を図るものとする。

Ⅱ 各取組の実績等

第2期短期戦略における取組の実施状況・第3期短期戦略における方針は次のとおりである。

表1 取組の実施状況

	実施	一部実施	未実施	計
作戦1 まずは知る	3件	1件	6件	10件
作戦2 行動に移す	11件	6件	5件	22件
作戦3 基盤を守る	8件	1件	1件	10件
作戦4 つながりあう	8件	1件	—	9件
作戦5 効果を高める	—	3件	—	3件
計	31件	9件	14件	54件

表2 第3期短期戦略における方針

	継続	一部 見直し	抜本的 見直し	計
作戦1 まずは知る	3件	2件	5件	10件
作戦2 行動に移す	13件※	5件	4件	22件
作戦3 基盤を守る	8件	2件	—	10件
作戦4 つながりあう	9件	—	—	9件
作戦5 効果を高める	1件	2件	—	3件
計	31件	13件	8件	54件

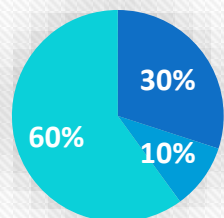
※完了も含む。

Ⅱ 各取組の実績等

第2期短期戦略における取組の実施状況は次のとおりである。

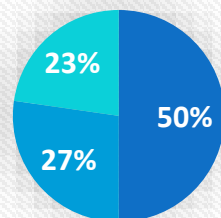
表1 取組の実施状況

作戦1



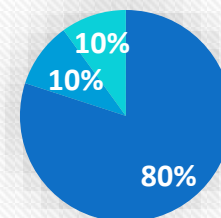
■ 実施 ■ 一部実施 ■ 未実施

作戦2



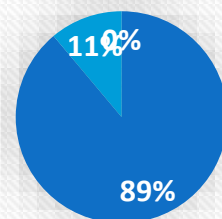
■ 実施 ■ 一部実施 ■ 未実施

作戦3



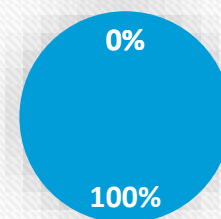
■ 実施 ■ 一部実施 ■ 未実施

作戦4



■ 実施 ■ 一部実施 ■ 未実施

作戦5



■ 実施 ■ 一部実施 ■ 未実施

Ⅱ 各取組の実績等

取組の実施状況・第3期短期戦略における方針の担当部署ヒアリング結果は、下表に示すとおりである。
着実に進行している取組がある一方で進捗に遅れが見られるなど取組内容の見直しが必要な取組もある。

取組番号		取 組	実施内容または未実施の理由	実施状況	第3期短期戦略における方針
作戦1	目標1	1-1-① 豊岡に住む生きものや植物の市民調査を実施します。	・ホタル調査(市、市民) ・ミズアオイを守る会(市民団体) ・出張！田んぼの学校(市、市民) ・水田ビオトープ報告書(市、市民) ・田んぼの学校(市民団体、市民) ・問診型モニタリング調査@加陽湿地(国交省) など	実施	継続
		1-1-② 豊岡らしい季節のことばを集めた「豊岡時候のあいさつ集」を作成します。	緊急性が低く、使用頻度、機会が減少しているため未実施である。	未実施	一部見直し
		1-1-③ 季節の特徴的な生きものや植物の観察会を開催します。	生きもの観察会等の周知依頼に対し、チラシ配布等で周知に協力している。また、2021年度から植村直己冒険館において「ホタル観察会」を開催し「子どもの挑戦する心を育む」事業として取り組んでいる。	実施	継続
	目標2	1-2-① 地域の生きもの博士情報を集め、「豊岡生きもの博士名鑑」を作成します。	・出張！田んぼの学校や小さな自然再生補助金等の活用で各分野に詳しい人物を派遣するなど現在の需要は満たしており緊急性がない。 ・「名鑑」という形が難しい。	未実施	抜本的見直し
		1-2-② 博士を増やすための「生きもの検定」を実施します。	コウノトリKIDSクラブ等で、生きものに関心を持ってもらう機会を提供しているが、「生きもの検定」は実施していない。	未実施	抜本的見直し
	目標3	1-3-① 地域の生きもの情報を詰め込んだ「豊岡版GIS」を構築します。	第2期で検討したが、GISに落とし込むための統一精度のデータ取得が難しいため未実施である。	未実施	抜本的見直し
		1-3-② その情報を、公共工事や自然再生の取組みに活用します。	「豊岡版GIS」が構築されていないため未実施である。 限られた予算で、多くのニーズにこたえるため、対応が難しい。	未実施	抜本的見直し
		1-3-③ 「コウノトリ市民科学」によるコウノトリのモニタリング調査を実施し、情報を発信します。	新しい飛来先の市民への理解を広めるために役立っている。	実施	継続

Ⅱ 各取組の実績等

取組番号		取 組	実施内容または未実施の理由	実施状況	第3期短期戦略 における方針	
作戦 1	目標 4	1-4-①	「ふるさと教育」などと連携して「生きもの地図」を作成するために支援します。	支援体制(小さな自然再生補助事業等)は整っているものの、実績は過去に1件のみとなっている。	一部実施	一部見直し
		1-4-②	「生きもの地図」の作成、活用に関するマニュアルをつくりまします。	子ども達が様々な課題に取り組む中でうまく学校と連携できなかったため、未実施である。 マニュアルは、民間事業者などが作成している。	未実施	抜本的見直し

取組番号		取 組	実施内容または未実施の理由	実施状況	第3期短期戦略 における方針	
作戦2	目標1	2-1-①	公共事業における「生きもの配慮指針」をつくりまします。	兵庫県が生物多様性配慮指針を策定しているため、市として個別に策定はしていない。	未実施	抜本的見直し
		2-1-②	「生きもの配慮指針」を公共事業や自然再生の取組みに活用します。	農林水産課では公共工事において環境基礎調査等を実施し保全対策等を講じているが、その他では、県の指針が浸透していないため、未実施である。取組むとしても費用がかさむ。	一部実施	抜本的見直し
		2-1-③	地域で行う「クリーン作戦・グリーン作戦」に、外来種対策をプラスすることを呼びかけます。	取組地区数は少ないが呼びかけは行っている。	実施	継続
		2-1-④	生物多様性保全のためにも「豊岡市景観計画」を推進します。	景観形成重点地区内の建築物等や市内屋外広告物を設置基準内に合うように指導を行っている。	実施	継続
	目標2	2-2-①	市民との情報共有を強化しながら、コウノトリの野生復帰を広げていきます。	市HPやポータルサイトにおける情報発信やコウノトリ市民科学による情報共有を図っている。	実施	継続
		2-2-②	見守りなどを通じて、野外のコウノトリと地域との関わりを生み出します。	コウノトリの新しい営巣地でも、地域住民が関心を持って見守りを行っている。	実施	継続

Ⅱ 各取組の実績等

取組番号			取 組	実施内容または未実施の理由	実施状況	第3期短期戦略 における方針
作戦 2	目標 2	2-2-③	「豊岡自然再生アクションプラン」に基づき、地域と連携した自然再生に取り組みます。	パイロットエリアとして、市内3地区にて取り組みを始めている。	実施	一部見直し
		2-3-①	「春の小川」の基準を定めます。	春の小川はみんなの心の中にあり、人それぞれイメージするものが異なるため、基準を定めれていない。	未実施	抜本的見直し
	目標 3	2-3-②	「春の小川」づくりをサポートするしくみをつくります。	基準ができていないため、マニュアルや仕組みづくりを行うことは困難である。	未実施	抜本的見直し
		2-3-③	モデル的に「春の小川」づくりに取り組む地域を募り、実践します。	「春の小川」づくりではないものの、自然再生アクションプランのパイロットエリアでは地域と協働した環境づくりを実践している。	一部実施	一部見直し
	目標 4	2-4-①	市民は、プランターや庭で緑を生み出します。	-	実施	継続
		2-4-②	地域は、神社や公園を緑や生きものの拠点として意識します。	効果的な周知方法が検討できていないため実施出来ていない。地域住民の方が管理する場所では、負担の軽減のため、薬剤使用に頼ることもしょうがない面がある。	未実施	一部見直し
		2-4-③	行政は、各ポイントを「回廊」として機能させます。	公園や庁舎の緑地においては、子育てや生物多様性の観点を踏まえて、除草剤を使わない、また環境に優しいものを使用するなどの配慮が行われている。	実施	継続
	目標 5	2-5-①	登録エリアにおける保全やワイズユース（賢明な利用）の取組みを充実します。	下記のような保全やワイズユースの取組を実施しているものの、ラムサール湿地という認識も低く取組内容が十分に広がってはいない。 取組例：KDDICSR、中筋小モニタリング調査、自然保育	実施	継続
		2-5-②	登録エリアをモデルに取組みや意識を周辺に広げ、エリアを拡大します。	2018年にラムサールエリアの拡張登録をした（1094ha）。	実施	完了

Ⅱ 各取組の実績等

取組番号		取 組	実施内容または未実施の理由	実施状況	第3期短期戦略における方針
作戦2	目標5	2-5-③ 学校教育でラムサール登録に触れ、誇りを醸成します。	「豊岡ふるさと学習ガイドブック」にラムサール条約の説明やその取組に関する表記がある。ふるさと教育の中で、本ガイドブックを積極的に活用するよう呼びかけている。	実施	継続
	目標6	2-6-① 外来生物に対する知識を深め、効果のある対策を検討します。	一部の外来種に対しては、チラシ等で周知を続けているものの、外来生物の駆除、防除には関係機関との調整が必要であり、調整が進んでいないため、効果のある対策を実施してはいない。	一部実施	継続
		2-6-② 豊岡版ブラックリストを用いた学習会を開催します。	2017年にリストは作成しているものの、具体的な対策方針等を定めないと、学習会での活用は難しいため出来ていない。	一部実施	一部見直し
		2-6-③ 外来生物への対策を強化するエリアを決め、積極的な駆除に努めます。	強化エリアとしては定めていないものの、一部の湿地では積極的な外来生物の駆除を実施している。 ・加陽湿地：CSR活動におけるウシガエルオタマ、オオフサモ駆除 ・戸島湿地：ウシガエル、ヌートリア、アカミミガメ駆除 ほか	一部実施	継続
	目標7	2-7-① 希少動植物に対する知識を深め、効果のある対策を検討します。	全ての希少動植物に対して保護策を講じることはできないため、市として緊急的に保護すべき種の選定を行った上で対策を検討する必要があるが、方針を定めれていない。 希少種を獣害から守るノアの方舟設置箇所：9か所	一部実施	継続
		2-7-② 豊岡版レッドリストを用いた学習会を開催します。	・2018年にリストは作成しているものの、学習会として活用できていない。生息場所等も明示しにくく、保護活動につなげにくい。 ・市民研が別途レッドデータブックを作成している(2020年)。	未実施	一部見直し
		2-7-③ 生態系に悪影響を及ぼす有害鳥獣への対策を強化します。	市内のシカ捕獲目標(有害・狩猟含めて)は、6,500頭であり、2014年度～2021年度まで8年連続で目標を達成している。 カワウも、近年300羽前後の駆除を行っている。	実施	継続

Ⅱ 各取組の実績等

取組番号		取 組	実施内容または未実施の理由	実施状況	第3期短期戦略における方針
作戦3	目標1	3-1-①	「豊岡市農業振興戦略」に基づき、豊岡型環境創造型農業を拡大します。	実施	一部見直し
		3-1-②	田んぼや水路の生態系機能を高めます。	実施	継続
		3-1-③	田んぼづくりに関する意識改革に取り組みます。	実施	継続
	目標2	3-2-①	生産者と市民との交流機会を増やします。	実施	継続
		3-2-②	生産者と全国の消費者との交流機会を増やします。 (例)コープ自然派、パルシステム等	実施	継続
	目標3	3-3-①	地元産品を扱う店舗や料理店の数を増やします。	一部実施	継続
		3-3-②	学校給食における地元産品利用割合を、国の基準(3割)に近づけます。	実施	継続
	目標4	3-4-①	学校園で環境に配慮した農業体験活動を実施します。	実施	継続
			戦略上の目標値は、51%以上(2021年度)であるが、2021年度は38.1%となっており、目標は達成できていない。 高齢化により、取組農家数は減少している。		
			公共工事の調査設計段階において、生き物に配慮し、生態系機能を高めるための取組みを行っている。		
			コウノトリ育む農法の作付面積拡大を図るとともに、当該農法水田での生き物調査を実施している。		
			・SNSで農業者の情報発信を行っている。 ・ファーマーズマーケットや販促活動での交流ができています。 ・小学校でのコウノトリ育む農法の出張授業実施回数…11校(2021年度)		
			豊岡型地産地消を推進するために、ビジネス相談窓口「IPPO TOYOOKA」や補助金による事業者支援を行う。		
			給食センターにおける地産地消の取組における野菜等使用状況は、以下のとおりであり近年は概ね国の基準を達成している。 2017 25.2%、2018 28.8%、2019 37.1%、2020 30.2%、2021 30.8%		
			環境に配慮することは難しいが、学校や地域の田畑を活用しての農業体験を行った小中学校は、2017年は72%、18年は67%、19年は76%、20年は61%と実施率は上下を繰り返している。地域ボランティアの確保が課題。		

Ⅱ 各取組の実績等

取組番号			取 組	実施内容または未実施の理由	実施状況	第3期短期戦略 における方針
作戦3	目標4	3-4-②	就職希望学生に向けて、第一次産業の魅力をPRします。	UIターン就職相談会等で、一次産業に特化したPRは行えていない。	未実施	一部見直し
		3-4-③	「豊岡農業スクール」などによる就農支援を行います。	豊岡農業スクールは10年間で新規就農者を30人育成することを目標に、2013年度からスタートした。2022年6月時点(10年目)で、28人が入校し、23人が卒業して市内で新規就農している。スクール卒業生を含めて、50歳未満の市内若手農業者数(研修生含む)は約60人である。	実施	継続
取組番号			取 組	実施内容または未実施の理由	実施状況	第3期短期戦略 における方針
作戦4	目標1	4-1-①	次世代を担う子どもたちを育てるため、自然とふれあう活動を充実させます。	2021年度から植村直己冒険館において宿泊体験を実施しているほか、「コウノトリKIDSクラブ」や「出張！田んぼの学校」など自然体験の場を提供している。また、民間団体が企画するイベントも増えつつある。	実施	継続
		4-1-②	地域の方が講師となって、地域で行う「自然遊び教室」を実施します。	10のコミュニティで、地域の方が講師となってビオトープ管理や生きもの観察会の指導員・バードウォッチキングの指導員などを行っている。	実施	継続
	目標2	4-2-①	PTAの学年行事に、生きもの調査や自然観察を採り入れます。	PTA行事として生きもの調査等は実施していないものの、地区育成会等や小学校でのふるさと学習として生きもの調査は実施している。	一部実施	継続
		4-2-②	生きものや自然に触れる親子イベントを数多く企画します。	2021年度から植村直己冒険館の運営において、宿泊体験を新設した。また、市内の子ども達を対象にキャンプやツリーイングなどの体験プログラムを提供し、約1,000人(延べ)の参加があった。	実施	継続
	目標3	4-3-①	祭事を通じて地域の文化や自然へのまなざしを醸成します。	指定文化財については祭事に関係する衣装や道具の更新費用等へ支援を行っている。 11のコミュニティで、〇〇地図を作成している。	実施	継続

Ⅱ 各取組の実績等

取組番号			取 組	実施内容または未実施の理由	実施状況	第3期短期戦略 における方針
作戦 4	目 標 4	4-4-①	生物多様性について学び、体験できるプログラムを充実します。	・文化館：田んぼの学校、各種観察会実施 ・加陽交流館：コミュニティなかすじ主催のフジバカマの保全、アサギマダラ観察、冬鳥観察会など ・戸島：中学生湿地造成プログラム（2021）	実施	継続
		4-4-②	地域コミュニティと連携し、生物多様性に関係のある取組みを応援します。	出張田んぼの学校（地域コミュニティ利用実績）の実績は以下のとおりである。 2018年度：4件、2019年度：3件、2020年度：0件、2021年度：3件	実施	継続
	目 標 5	4-5-①	コウノトリ野生復帰の取組みに参加する人を増やします。	CSR活動件数（戸島湿地でのCSR除く）は以下のとおりである。 2018年度：4件、2019年度：5件、2020年度：1件、2021年度：3件	実施	継続
		4-5-②	コウノトリ野生復帰の取組みや豊岡の自然に共感して訪れる人と地域住民との交流機会を増やします。	視察等の受入実績は以下のとおりである。 2018年度：7件、2019年度：6件、2020年度1件、2021年度：4件 また、コウノトリ生息地の保全活動など生物多様性の保全、市民との交流を含む「コウノトリツーリズム」のプログラムを開発中である。	実施	継続

取組番号			取 組	実施内容または未実施の理由	実施状況	第3期短期戦略 における方針
作戦 5	目 標 1	5-1-①	PDCAサイクルの手法を取り入れます。	個別の事業では、PDCAを取り入れ実施しているものもあるが、全体的に取り入れられているかと言えば、言い難い。PDCAサイクルの適用に向き不向きもあり、整理が必要。	一部実施	継続
		5-1-②	アダプティブマネジメント（適応管理）の手法を取り入れます。	モニタリング調査等による継続的な評価検証は行えていないが、ハチゴロウの戸島湿地や加陽湿地においては、適応管理の手法を取り入れている。	一部実施	一部見直し
	目 標 2	5-2-①	市役所を中心に拠点を定め、取組みを推進します。	コウノトリ共生課を中心にコウノトリ文化館やハチゴロウの戸島湿地等が拠点となっているが、戦略を推進していくための十分な体制は整っていない。	一部実施	一部見直し

Ⅱ 各取組の実績等(コミュニティ)

取組番号			取 組	実施内容または未実施の理由	実施数	第3期短期戦略における方針
作戦2	目標1	1-1-③	季節の特徴多岐な生き物や植物の観察会を開催します。	生き物調査、生き物観察会、ホタルを見る会 野鳥観察会、星を見る会	13	継続
	目標6	2-6-①	地域の共同作業のなかで、外来生物対策を実施していますか。	セイタカアワダチソウやオオアカウキクサの駆除。ザリガニ釣りではアメリカザリガニの駆除、ウシガエル、オオフサモの駆除	4	継続
作戦3	目標7	2-7-①	地域の大切な生きものや植物(コウノトリ、ミズアオイ、ホタルなど)などを守る活動を実施していますか。	ビオトープ祭り、希少種の保全活動、花めぐり、里山遊歩道整備、里山への松の植樹(コウノトリの営巣のため)	6	継続
	目標1	4-1-②	地域の方が講師となって、地域で行う「自然遊び教室」を実施します。	ビオトープの管理、生き物観察会の指導員、バードウォッチングの指導、しめ縄づくり、門松づくり指導、寄せ植え作りの指導	10	継続
作戦4	目標4	4-3-①	祭事を通じて地域の文化や自然へのまなざしを醸成します。(地域の「〇〇地図」の作成)	おじぞうさんマップ、お宝マップ、自然資産・文化資産・歴史資産マップ、文化財や伝統文化マップ 防災マップ、一人暮らしマップ、消防設備マップ	11	継続
			地域の伝統行事には、自然への感謝や畏怖の気持ちが込められた行事が数多くあります。そのような伝統行事を把握し、整理していますか。	各区の祭りや神事・お寺も把握している。村史の発行 自然資産・文化資産・歴史資産マップ、文化財や伝統文化マップ	6	継続
			今後、豊岡の自然や生きものに関連した新規事業の実施を検討されていますか。	自然環境や歴史についてのテーマにした事業 カブトエビ・ホタル・モリアオガエルなどの貴重な虫の姿がみられるので、子ども達にも知ってもらおう活動	4	
			自然や生きものに関連した新規事業を実施したくてもできない場合、その理由は何ですか。	今も事業をしていて、今以上の実施は考えにくい コミュニティの規模が大きく難しい。区単位でも難しい。 関心が薄い、参加者の確保が難しい		

Ⅲ 取組事例

- ① 子どもへの環境学習の実施
- ② 希少種保全のための環境整備
- ③ 有害鳥獣の捕獲

① 子どもへの環境学習の実施

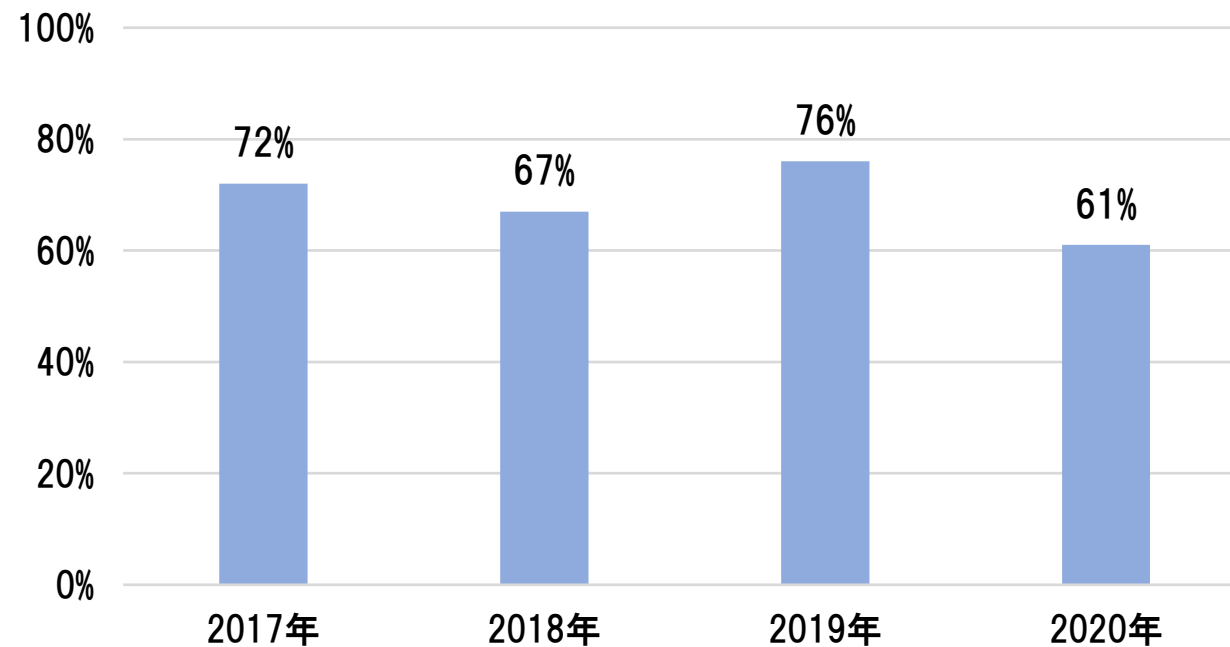
関連する取組：1-1-③、3-4-①、4-1-①、4-2-②

「子どもの挑戦する心を育む」事業として、植村直己冒険館において宿泊体験・ホテル観察会や、キャンプ等の体験プログラムを提供し、延べ約1,000人(2019年度実績)の参加があった。

また、学校では、学校や地域の田畑を利用した農業体験を継続的に実施しており、毎年7割前後の小中学校で体験が行われている。



農業体験実施率（％）



出典：「植村直己冒険館」HP Uemura-Nature-School

出典：2020年度 豊岡市環境報告書

② 希少種保全のための環境整備

豊岡市内にあるNPO法人(コウノトリ市民研究所)では、豊岡に生息する希少種の一覧やポスターを作成している。

また、城崎町の菊屋島には日本版レッドデータブックに記載の絶滅危惧種である「ヒヌマイトトンボ」が生息しているため、隣接している城崎庁舎では除草剤を使用せず、人の手による除草や一部葎を残すことにより生息地の保全を図っている。



絶滅危惧種「ヒヌマイトトンボ」

関連する取組: 2-4-③

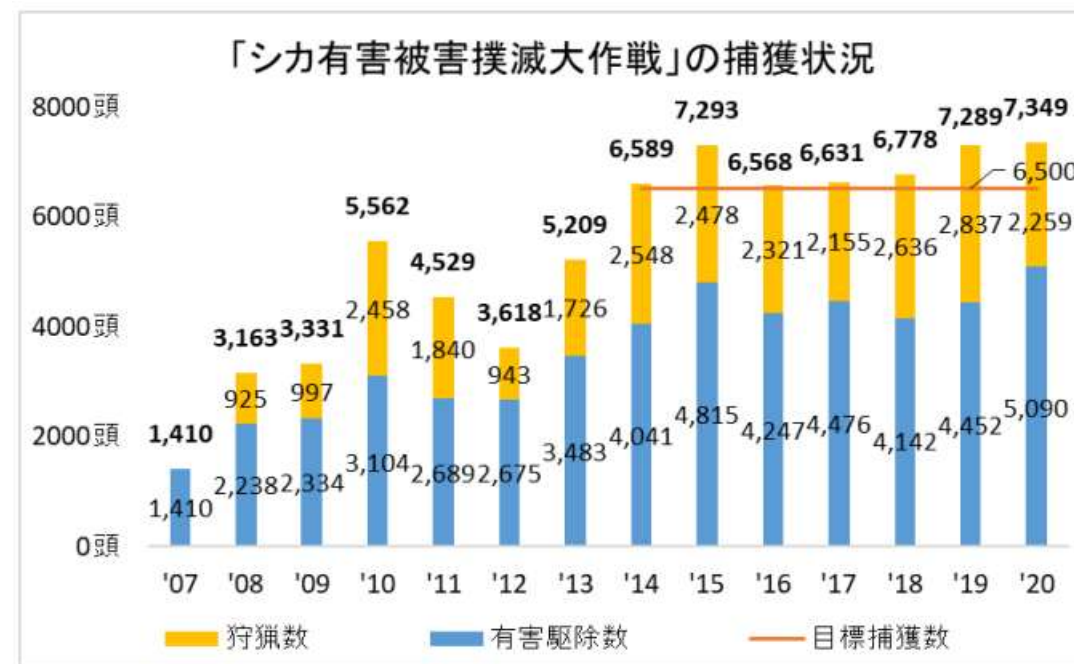


出典: 豊岡市立コウノトリ文化館HP

③ 有害鳥獣の捕獲

関連する取組：2-7-③

豊岡市は、シカやイノシシによる農業被害が年間49,864千円発生しており(2020年度実績)、農業被害の低減や、生態系への悪影響の防止として、2014年度から年間捕獲数6,500頭を目標に「シカ有害被害撲滅大作戦」を実施している。



※狩猟数は、狩猟期に個人が捕獲した頭数。

※有害駆除数は、一般、専任班、捕獲実施隊が有害獣として捕獲、駆除した頭数。

出典：2020年度 豊岡市環境報告書

IV 取組による成果

- ① 「持続可能な観光地 世界トップ100選2021」における選出
- ② 第1回グリーンインフラ大賞「国土交通大臣賞」の受賞

① 「持続可能な観光地 世界トップ100選2021」における選出

持続可能な観光地を認証する国際的団体「グリーン・デスティネーションズ」の表彰制度『持続可能な観光地 世界トップ100選2021』に豊岡市が選出された。

豊岡市における観光マネジメント戦略や景観保全などの取組状況、絶滅したコウノトリの野生復帰における持続可能な環境を取り戻す取組みなど、長年にわたる市民、事業者、行政の取組みが評価されたものとなった。



グリーン・デスティネーションズとは

世界持続可能観光協議会（GSTC）が開発した「持続可能な観光」の国際指標の国際認証団体のひとつ。オランダにある非営利団体。金銀銅のアワードや認証制度、観光庁の持続可能な観光のモデル地区もエントリーが支援されている「世界の持続可能な観光地100選」プログラムで有名。

出典：豊岡市HP

② 第1回グリーンインフラ大賞「国土交通大臣賞」の受賞

2021年3月、グリーンインフラ官民連携プラットフォームがグリーンインフラに関する優れた取組事例を表彰する「第1回グリーンインフラ大賞」で、豊岡市の取組みが「国土交通大臣賞」を受賞した。

グリーンインフラとは、自然環境が有する多様な機能を活用し、社会におけるさまざまな課題解決に活用しようとする考え方である。



出典: グリーンインフラ 官民連携プラットフォーム
<https://green-infra-pdf.s3-ap-northeast-1.amazonaws.com/>